

# シラバス

授業科目	病原微生物とたたかう(H18～)・感染症と化学療法学(~H17)		
(英 文 名)	Infection and Chemotherapy・Antibiotics, Anticancer and Chemotherapy		
担当教員	福長将仁、宇野勝次		
単位数(期別)	△1(後)(H18～) ・②(前)(~H17)	対象学生	3P(H18～) ・3P(~H17)

## ■授業のねらい・概要■

微生物感染症治療に用いられる化学療法剤の分類、作用機序、薬剤感受性と薬剤耐性メカニズム、副作用としての直接作用、アレルギーおよび二次的作用について学習する。さらに臨床応用として用法容量ならびに治療例を学ぶとともに、医薬品情報を理解し、正しく取り扱うための知識や技術を習得する。【C14(5)】

## ■授業(学習)の到達目標■

- 1 抗菌薬の基本構造を示し、作用点にもとづいて分類できる
- 2 細胞壁合成阻害により抗菌力を発揮する薬物を分類し、有効な感染症を列挙できる
- 3 蛋白合成系に作用する抗菌薬分類し、有効な感染症を列挙できる
- 4 サルファ剤、キノロン系抗菌薬の抗菌スペクトルと有効な感染症を列挙できる
- 5 結核菌、真菌、原虫、寄生虫に作用する薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる
- 6 抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明するとともに併用療法における注意点を概説できる
- 7 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明するとともに、副作用や症状を説明できる
- 8 特徴的な吸収、分布、組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる
- 9 生物学的製剤を挙げて、作用機序を概説するとともに使用上の注意点を説明できる

## ■回数ごとの授業内容■

- 1 細胞壁合成阻害により抗菌力を発揮する薬物(福長)
- 2 蛋白合成系に作用する抗菌薬(福長)
- 3 合成抗菌薬と抗ウイルス薬(福長)
- 4 真菌、原虫、寄生虫に作用する薬(福長)
- 5 耐性と副作用、生物学的製剤(福長)
- 6 抗菌薬処方の実際(宇野)
- 7 抗菌薬処方における問題点(宇野)
- 8 臨床現場における抗菌薬使用上の注意点(宇野)

## ■成績評価の方法・基準■

学科試験により評価する

## ■使用テキスト■

書名 微生物学—病原微生物学の基礎—、著者名 柳原保武ほか、出版社名 南江堂、ISBN・ISSN4-524-40172-5

## ■参 考 書■

微生物薬品化学、田中・土屋、南江堂

オフィス・アワー (授業内容等の質問・相談日)	随時(月曜日～金曜日、9時～17時)
----------------------------	--------------------

# シラバス

<使用テキスト注文書>

注) すべての項目をご記入下さい。

書名	微生物学—病原微生物学の基礎—
著者名	柳原保武ほか
出版社名	南江堂
ISBN・ISSN	ISSN4-524-40172-5
予想部数	135